



# 社会科部報

令和4年 5月 11日  
浜松市教育研究会 社会科研究部

## 令和4年度 社会科研究部 主任者会

4月11日（月）に浜松市雄踏文化センターにて、感染症対策を行いながら開催されました。今年度の研究の概要や組織について確認をし、令和4年度の研究部のスタートが切られました。

### 1 顧問校長あいさつ

気賀小学校 校長 齊藤 昌長

昨年度もコロナ禍において、各校ごとに工夫をして活動してきたと思われるが、今後も先行きが不透明な時代である。体験活動を取り入れた学習とICTを活用した学習のバランスを考えながら、実施可能な活動や新しい方法を模索していく必要がある。

世界の情勢が大きく動く中、なぜ「社会科」を学ぶのか、公民的資質とは何かを考え、社会科にしかできないことを追究する研修を進めてほしい。



### 2 令和4年度研究部長・副部長選出



部長	可美小学校	教諭	古山 政一郎 (写真右端)
副部長	可美小学校	教諭	鳥居 恒平
	葵西小学校	教諭	藤田 直也
	和田小学校	教諭	小野 弘太郎
	村櫛小学校	教諭	栗野 高史 (写真右から順に)

会場の先生方の御承認を受け、令和4年度の研究部長・副部長が選出されました。

### 3 令和4年度研究主題

可美小学校 教諭 古山 政一郎

令和4年度の研修主題は「意欲的に社会的事象を追究し、未来を問い続ける児童を育てる社会科学習～社会的事象の見方・考え方を働かせる授業づくり～」である。今年度も継続して「見方・考え方を働かせる授業づくり」についての研修を進めていく。この研修主題の下、自分自身で問いを持ち続け、主体的に問題解

決しようとする児童の姿の実現を目指していく。そのためにも、社会科を指導する教員が社会的事象の魅力を引き出し、どのように児童へ興味をもたせ、学習へ動機付けさせるかを追究することが重要であると考え。

また、中教審の答申では、「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現を訴えている。この背景にあるのは、現代社会が予測困難な時代であるということだ。コロナ禍で様々な影響がある中、教員としてどのようなことができるのか、学力の保障をどう工夫していくかが課題となっている。変化する社会に対応するために、従来の日本型学校教育を発展させ、令和型の学校教育を社会科でも実現させなければならない。

さらに、GIGA スクール構想についても考えていきたい。今まで教員が磨いてきた技とテクノロジーの双方から、児童に働きかけるような授業をデザインしていくことが大切である。全ての児童の可能性を引き出すために、ICTを活用し、これまでの実践と最適に組み合わせることで教育の質の向上を目指したい。

## 4 年間事業計画

### 第1回研修会

日 時 令和4年5月25日(水)

会 場 浜松市可美公園総合センター

研修内容 ・本年度研修テーマの趣旨説明  
・研究部の組織、研究内容、運営方針  
・専門部会の概要説明

### 第2回研修会

日 時 令和4年8月2日(火)

会 場 天竜壬生ホール

研修内容 【午前の部】  
臨地研修  
【午後の部】  
・実践発表 ・講演会 ・分科会

### 第3回研修会

日 時 令和4年11月2日(水)

会 場 井伊谷小・教育センター

研修内容 研究授業  
研究協議

## 5 専門部の活動

授業研究部では、実践力向上を目指して、第3回市教研に向けて指導案検討、運営準備や当日の運営をする。意見交換を通して社会科主任の力量向上を図っていく。

教材研究部では、主にICTを活用した教材開発を行っていく。GIGA スクール構想の実現に向け、浜松市中央図書館デジタルアーカイブを用いて、授業に活用できる教材を図書館と一緒に考えていきたい。

社会科自由研究部では、自由研究審査会・博物館審査を通して、社会科好きの児童を増やすことと、教員の資質向上を目指す。活動としては、主に審査会の運営を行う。昨年度は、新型コロナウイルスの影響により、部会ごとの開催になった。本年度も感染予防を徹底したうえでの実施を考えているため、それを踏まえた児童の見学や調査の仕方や、教員の審査方法を検討していく。